

平成19年度学術創成研究費 中間評価結果

研究課題名	大気・陸上生物・海洋圏に係る温室効果気体の全球規模循環の解明	研究代表者名	中澤 高清
-------	--------------------------------	--------	-------

該当箇所()に 等の印を付け、意見を記入してください。

1 研究を推進する必要性について

推薦の趣旨に照らし、採択時以降の関連研究分野の学術動向を踏まえた上で引き続き研究を推進する必要性は高いか

- ア() 高い
- イ() やや高い
- ウ() やや低い
- エ() 低い

意見：
地球環境問題として非常に重要な研究課題である温室効果気体の科学的解明は、我が国が世界的に貢献すべき分野である。とくに本研究課題は学術創成研究として推進する必要性は高い。

2 研究の進捗状況について

(1) 当初の研究目的に沿って、着実に研究が進展しているか

- ア() 予定以上に進展している
- イ() 概ね予定どおり進展している
- ウ() やや遅れている
- エ() 遅れている

意見：
計測機器の開発とその利用によるデータ取得、大気輸送モデルの開発などにつき予定どおりの進展を見せている。

(2) 今後の研究推進上、問題となる点はないか(ある場合に回答、複数回答可)

- ア() 研究経費
- イ() 設 備
- ウ() 組 織
- エ() そ の 他

意見：
特に問題ない。

3 これまでの研究成果について

当初の研究目的に照らして、現時点で期待された成果をあげているか(又はあげつつあるか)

- ア() 期待以上の成果をあげている
- イ() 概ね期待された成果をあげている
- ウ() 期待された成果をあげつつある
- エ() 期待された成果はあがっていない

意見：
当初の研究目標に向かって計測とモデル化に関し、世界的レベルの研究成果を得ており、さらなる進展が期待できる。

4 研究組織について

研究者相互に有機的に連携が保たれ、活発な研究活動が展開される研究組織となっているか

- ア () 有機的に連携が保たれている
- イ () あまり有機的に連携が保たれていない
- ウ () その他

意見：
東北大学を核に、他大学、国立研究所などと、研究計画にそった形で連携がうまく保たれている。

5 研究経費の使用状況について

研究経費は効率的・効果的に使用されているか

- ア () 効率的・効果的に使用されている
- イ () あまり効率的・効果的に使用されていない
- ウ () その他

意見：
特に問題はない。

6 研究課題の総合的な評価

該当欄	評価結果
A +	当初計画を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる
A	当初計画どおり順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる
B	当初計画より研究が遅れており、今後一層の努力が必要である
C	当初計画より研究が遅れ、研究成果も見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である

総合的な評価意見：

地球温暖化問題に関し、温室効果気体に関する研究は現時点で非常に重要な課題である。本研究では、二酸化炭素、酸素をはじめ、温暖化効果をもつ気体の微量計測機器の開発、成層圏や対流圏における空間的、時間的観測、フィルムの空気分析による長時間スパンでの変動解析、全球大気輸送および循環モデルの開発とその数値解析などにおいて、当初計画以上の成果が得られつつあり、またその結果は世界的レベルの雑誌等に発表されている。これより、その実績は高く評価される。今後、さらに研究代表者のリーダーシップを強化し、各分野において当初目標以上の最終成果をあげることに努力するとともに、成果を国際的に発信する仕組みも考慮してほしい。